資料３－１

岩切・女性たちの防災宣言を作る会

岩切は昔ながらの農業地帯と新興住宅の入り混じった地域です。３世帯同居家庭が多いかと思えば、新しい住民は共稼ぎで留守がちであったりと、地域的な課題も多様です。七北田川と利府街道によって４つに分かれる土地の形状で、今回の震災において問題点が浮き彫りになりました。
「女性たちの防災宣言」は平成２２年６月１２日の宮城野区総合防災訓練で発表されました。以下作成までの流れになります。

① 木須宮城野区長(当時)より、より実際の災害に役立つ避難訓練の提案。女性目線で宣言をだしてみませんか？岩切らしく、弱者を守り、生き抜く気持ちを言葉にしてみましょう。

② 5/13　NPO法人イコールネット仙台　宗片恵美子氏によるワークショップ
子育てサークル「ちびっこクラブ」において、災害時に私は何ができるのか、なにを不安に思っているか、すぐにできる対策は？等、赤ちゃんから幼児を連れたお母さん対象に開催。避難所がどこか初めて知った、備蓄するものをさっそく用意したい、隣人と交流したい等の感想。

③ 5/17　同ワークショップ
対象を地域の各団体で中心となり活動する女性に替える。地域を見渡した生活の中からの意見、情報量の多さ。子育て、介護を経験したり、学校や各施設との関わりから見える協力関係などを再確認。お互いの団体の様子や、災害に対する意識を知り、刺激をうける。世代を超えた交流ができてよかった。家族を守るために地域が力をあわせることが必要。公的支援はすぐにはこない。「自助・共助・公助」を学ぶ。

④ 宣言作成
具体的に、岩切の女性からどのようなメッセージを発信するか。岩切の大切なもの。特産物。地形、歴史、命を守る気持ちをめいいっぱいにこめた「岩切・女性の防災宣言」が岩切の女性、木須区長、宗片氏の手によって生み出されました。
（別紙）

「平成２２年度仙台市宮城野区総合防災訓練」当日
防災訓練への参加。それぞれに婦人防火クラブ、防犯協会、小・中ＰＴＡ、町内会員等地域の団体から参加する中、女性目線の意見が取り入れられた避難所設営に参加しました。
訓練の最後に、この宣言を読み上げました。女性の声を女性だけに届けても意味がない。多くの住民、関係者に聞いてもらうことで実際の災害時に役立つものになるように、との願いが込められました。（岩切小：角田、大沢　　岩切中：長田）
他地区の防災コーディネーターさんから声をかけられ、後日宣言作成の経過をお話しする機会がありました。その地域ならではのとりくみをおすすめすると共にこの宣言を胸にとめてくれたことに、感謝！

◎ 防災宣言から東日本大震災まで

- 朗読劇「手紙　めぐりくる春に」アフタートーク発表１１／６
- 「来てしまった！さあどうする？～女性の目で減災を～」10／２７
- 市長と地域のつどい　　８／２５
  市民、社会学級生、地域の皆さんに向けて経験を伝えました。

◎ 東日本大震災以後

この仲間たちは、震災当日から、誰の何の指示がなくとも地域や避難してきた人を助けるのに労を惜しみませんでした。全壊、半壊の家を置いて、もっと大変な人のために、動き続けました。学びどうりに完璧な自助をやり通した人もいました。避難所解散まで炊き出しを毎日作りつづけた人もいました。

それぞれの立場における動きでもあったと思います。でも私はそこに心を感じずにはいられませんでした。お互いのつらさがわかる、必要とされていることがわかるから、あの一か月を乗りきれた気がします。

実際の避難所で女性に声をかけて、場所の移動や、仕切りの必要性を聞きました。今後の防災、減災に役立てていけたらいいと思います。ひとつひとつの動き、思いに、宣言がいきづいています。確かにモノは必要だった。それ以上に私たちを支えた絆は、消えることのない財産です。

<活動の感想>

- 炊き出しなどの活動をしたが、今振り返ると、もっともっとできることがあったはず、と考える。あの状況の中、活動に向かうことが私自身の震災を乗り切る原動力になった、と実感する。
- 誰もが追い詰められた環境で生きるために必死でした。そんな状況下でいかに、秩序やルールを守るか、サービスを提供する側は、いかに計画をたてるか（想定外も含めて）時間を追ってのニーズの変化によく対応してもらった。
  普段からの人間性、感謝の心、思いやる心が秩序ある行動に結びついた。
- 子どもたちに自分の命を守るすべを学んでほしい。教訓としてこの震災をいかしていきたい。
- 防災宣言に近所の皆さんと声をかけあうことがもりこまれていたことで、行動に確信がもてました。
- 小ＰＴＡ役員をしています。子どもを守るだけではなく、育てること全般に地域の皆さんとのかかわりが必要だと痛感し、保護者としても地域に協力貢献したいと思います。地域で育つ子どもがやがて守る大人になるよう、私たちが、規範になっていきたい。そのことが、防災に強い街づくりに一役を担うと思います。
- 会えて安心した～といってもらえた時に、岩切でいろんなことやってよかったなあって思えました。いつもの人がいつものように、が、地域ならではの助け合いだったならうれしいです。
- 他地域の皆さんにも興味をもってもらい、宣言を伝える場をいただきよかった。
- 在宅の高齢者、赤ちゃん家庭への働きかけが届かなかった。特に、新しい住宅地、交流のない家庭への支援が難しく、今後の課題。

- 私たちは防災の為に作られた組織ではなく、地域活動を、地域で子どもを育て行くことをがんばってきた人たちの集まりです。何のしばりもないメンバーが、躊躇なく動き出す様子に感動すら覚えました。

＜以後の活動＞

- 東六番丁小学校社会学級２０１２/2/2 東六番丁コミュニティセンターにて。「女性宣言がつなぐ地域の絆」体験発表
- 「災害から１年加藤登紀子さんとともに」城西国際大学東京キャンパス　２０１２／６／２３ 体験発表
- 各ＰＴＡは子どもたちの地域貢献を支援。ひまわりの花をさかせる活動。ちょボラ隊、あいさつ活動。オランダ大使館との交流支援。学校支援地域本部との連携。
- 「小さな子どものいる方へ　防災の話」岩切児童館　２０１２／７／９